

令和 4 年 6 月 21 日現在

機関番号：23803

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K01800

研究課題名（和文）グローバルタレントマネジメントにおける地域統括本社の役割に関する実証的考察

研究課題名（英文）Empirical research on the role of regional headquarters in global talent management

研究代表者

笠原 民子（Kasahara, Tamiko）

静岡県立大学・経営情報学部・講師

研究者番号：40523189

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、グローバルタレントマネジメント、特に、タレント識別における地域統括本社の役割を実証的に明らかにすることを目的としていた。地域統括本社に着目した理由は、本社と海外子会社間には物理的、文化的、制度的距離があるために、本社が適切に距離のある海外子会社のタレント候補者を認識することが難しいことが指摘されてきたからである。

文献レビューを通じてタレント識別における地域統括本社の役割に関する概念モデルを構築した。それを踏まえて、定量調査の測定項目を設定し、欧州地域における日本企業の地域統括本社、地域統括本社の管理下にある海外子会社、本社の管理下にある海外子会社を対象に定量調査を実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、第1に、グローバルタレントマネジメント研究にて看過されてきた地域統括本社の役割に着目し、タレント識別プロセスに影響を与える諸要因を明らかにした点にある。第2は、これまで欧米の文脈におけるグローバルタレントマネジメント研究が主流となってきたが、日本企業のデータを用いてタレント識別プロセスに影響を与える諸要因及び特徴を明らかにしようとした点にある。

本研究の社会的意義は、多国籍企業及び多国籍企業に従事するタレントに対して、タレントのキャリア形成に影響を与える外的・内的諸要因を明らかにするとともに、本社と海外子会社間の距離をブリッジする地域統括本社の役割を明らかにした点にある。

研究成果の概要（英文）：This study aims to examine the role of regional headquarters in global talent management. The reason for focusing on regional headquarters is that the physical, cultural, and institutional distance between headquarters and overseas subsidiaries has been recognized to make it difficult for headquarters to identify talent in distant overseas subsidiaries.

Through a literature review, we developed a conceptual model of the role of regional headquarters in talent identification. Based on this model, we developed the measurement items or employed items for the quantitative survey. We conducted a quantitative survey of the regional headquarters of Japanese companies in the European region, overseas subsidiaries under the control of the regional headquarters, and overseas subsidiaries under the control of the headquarters.

研究分野：国際経営

キーワード：グローバルタレントマネジメント 地域統括本社 タレント識別プロセス 国際人的資源管理 日本多国籍企業

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

経営活動のグローバル化の進展を背景に、グローバルタレントマネジメント研究 (GTM: Global Talent Management) は、国籍の違いを問わず優秀な人材をグローバルな規模で識別しマネジメントすることが、多国籍企業の競争優位の構築・維持に繋がるとの認識に立っている。いわゆる“グローバル統合(標準化)”の視点である。これは、優秀な人材の拠点間移動(拠点を越えたキャリア形成)という問題に展開される。このような問題意識の下、先行研究では、どのように本社で開発された GTM を海外子会社(先進国・新興国)に移転し、実践するのかという問題に焦点が当てられてきた。

本研究課題の着想に至った科学研究課題にて、新興国に進出している日本企業及び関連組織考察対象とし、半構造化インタビューを実施した。その結果、われわれが対象としたホスト国に進出している日本企業のグローバルタレントマネジメントは、本社、地域統括本社からの影響を受けていることが明らかとなった。この研究成果を踏まえて、われわれは、研究対象とした日本企業の本社への半構造化インタビューを実施した。その結果、本社のタレントプールへの海外子会社のタレントの組み込みには2段階プロセスと3段階プロセスがあることが確認された。2段階プロセスとは地域統括本社を設置しない日本企業に見られる方法で、子会社のトップが将来の幹部候補生を業績によって選別し、本社での経営会議等の場で、本社の意思決定者に候補者情報を共有する方法である。他方、3段階プロセスは、地域統括本社を設置する企業に見られる方法である。海外子会社のトップが将来の幹部候補生を業績によって選別するが、地域統括本社にて開催される経営会議等の場において、地域統括本社の意思決定者に候補者を紹介し、地域統括本社の意思決定者はその候補者のポテンシャルを業績評価結果等観点から再レビューしていた。その後、候補者は本社で開催される経営会議の場で本社の意思決定者に紹介され、レビューされた後に本社のタレントプールに組み込まれていた。

加えて、どのように多国籍企業本社は世界に散在している海外子会社の優秀な人材を発掘・識別し、本社のタレントプールに組み入れるのかという問題も取り上げられるようになってきた。この背景には、多国籍企業本社と海外子会社間には物理的、文化的、制度的距離があるために、本社は特に距離のある海外子会社に従事するタレントを識別することが難しいという課題があることが指摘されてきた。

これまでの研究成果を踏まえて、本研究課題では、本社と海外子会社間にある距離を埋める組織的解決策として、われわれは、地域統括本社に着目した。しかし、グローバルタレントマネジメント研究では、本社と域内子会社との間を調整する地域統括本社の役割が看過されている現状にあった。その背景には、地域統括本社は、Perlmutter (1969) が提示した企業の多国籍化の度合い、中でも、地域志向に位置付けられる特徴として捉えられていることがある。しかし、今日多国籍企業はセミグローバルリゼーションという環境下でビジネス活動を展開しており、各地域のマネジメントを含めてグローバルマネジメントを検討する必要がある。

以上のことから、われわれは、グローバルタレントマネジメントにおける地域統括本社の役割に着目するに至った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、グローバルタレントマネジメント研究におけるタレント識別に焦点を当て、多国籍企業本社とそれら先進国及び新興国における海外子会社間を調整する地域統括本社のブリッジ機能について理論的・実証的に考察することにある。

3. 研究の方法

定性的手法及び定量的手法を用いてグローバルタレントマネジメントにおける地域統括本社の役割を明らかにした。定性的研究として、グローバルタレントマネジメントに関する文献レビューを行い、域内子会社と地域統括本社の関係性及び地域統括本社と本社との関係性という2つの視点から、タレント識別に影響を与える諸要因について検討し、概念モデルを構築した。この概念モデルを踏まえて、定量調査の実施に向け、グローバルタレントマネジメントにおける地域統括本社の役割及びタレント識別に影響を与える諸要因の測定項目を作成するとともに、先行研究で使用されてきた測定項目を援用し、調査票を作成した。

4. 研究成果

文献レビューを通じて、タレント識別における地域統括本社の役割及び、海外子会社のタレントの識別に影響を与える個人レベルの諸要因及び、本社によるタレント識別に影響を与える企業レベルの諸要因についての概念モデルを構築した。

そのモデルを用いて、定量調査の実施に向け各概念の測定項目を作成し、欧州地域の日本企業（地域統括本社、地域統括本社の管理下にある海外子会社、本社の管理下にある海外子会社）を対象に定量調査を実施した。しかし、2022年からのロシアによるウクライナ侵攻を受け、調査票の送付国等において大きな制約を受けることとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 笠原民子	4. 巻 68
2. 論文標題 タレント識別プロセスにおける地域統括本社のブリッジ機能：文献レビューを中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 商経学叢	6. 最初と最後の頁 135-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件/うち国際学会 7件）

1. 発表者名 笠原民子・関口倫紀
2. 発表標題 現地従業員の発言行動の先行要因とチームイノベーションとしての改善活動：在タイ日系企業の事例
3. 学会等名 国際ビジネス研究学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kasahara, T. and Sekiguchi, T.
2. 発表標題 Antecedents of local employee 's voice behaviors and kaizen activities as a team innovation: The case of Japanese MNCs in Thailand
3. 学会等名 AOM (Academy of Management) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kasahara, T., & Sekiguchi, T.
2. 発表標題 Corporate philosophy as a linking mechanism: Antecedents and behavioral outcomes of internalization of corporate philosophy at Japanese MNCs in Thailand
3. 学会等名 AJBS (Association of Japanese Business Studies) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1 . 発表者名 Kasahara, T., & Sekiguchi,T.
2 . 発表標題 Does corporate philosophy matter in foreign subsidiary management? The case of Japanese MNCs in Thailand
3 . 学会等名 2020 KAIB (Korean Academy of International Business) Annual Conference (国際学会)
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Kasahara, T., & Sekiguchi,T.
2 . 発表標題 Managing teams and individuals at foreign subsidiaries through corporate philosophy: The case of Japanese MNCs in Thailand
3 . 学会等名 2020 AIB (Academy of International Business) Annual Conference (国際学会)
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Kasahara, T. & Sekiguchi, T.
2 . 発表標題 The Effect of Corporate Philosophy on Employees Behaviors: The Case of Japanese Subsidiaries in Thailand
3 . 学会等名 Internatinal Federation of East Asian Management Association (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Kasahara, T. and Sekiguchi, T.
2 . 発表標題 The role of corporate philosophy in managing foreign subsidiary employees: The case of Japanese subsidiaries in Thailand
3 . 学会等名 AIB (Academy of International Business) (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1. 発表者名 Kasahara, T. and Sekiguchi, T.
2. 発表標題 The role of corporate philosophy in managing foreign subsidiary employees: The case of Japanese subsidiaries in Thailand
3. 学会等名 AJBS (The Association of Japanese Business Studies) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 笠原民子・関口倫紀
2. 発表標題 The role of corporate philosophy in employee behaviors: The case of Japanese subsidiaries in Thailand
3. 学会等名 国際ビジネス研究学会第34回中部部会 & 第48回関西部会合同研究会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 Kasahara, T.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer Nature Singapore	5. 総ページ数 340
3. 書名 Chap.10 How do Japanese MNCs identify talent?: The neglected role of regional headquarters in global talent management in H. Shioji, D. R. Adhkari, Yoshino, F., and Hayashi, T. (eds) Management for sustainable and inclusive development in a transforming Asia.	

1. 著者名 笠原 民子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文真堂	5. 総ページ数 376
3. 書名 「サービスのプロダクト化とタレントマネジメント」『未来の多国籍企業：市場の変化から戦略の革新、そして理論の進化』、第15章、pp.343-365。	

1. 著者名 Kashara, T.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 314
3. 書名 " Knowledge transfer and creation systems: Perspectives on corporate socialization mechanisms and human resource management," in J. Cantwell, and T. Hayashi, (eds.) Paradigm shift in technologies and innovation systems. Chapter 10, pp.265-293.	

1. 著者名 笠原民子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 白桃書房	5. 総ページ数 265
3. 書名 「グローバルタレントマネジメントと国際ビジネス」『安室憲一の国際ビジネス入門』、第15章、pp.219-233。	

1. 著者名 安室憲一、山口隆英、古沢昌之、津田康英、森 樹男、青木美樹、山内昌斗、田端昌平、山部洋幸、梅野巨利、崔 圭皓、西井進剛、四宮由紀子、有村貞則、笠原民子、伊田昌弘	4. 発行年 2019年
2. 出版社 白桃書房	5. 総ページ数 267
3. 書名 安室憲一の国際ビジネス入門	

1. 著者名 Cantwell, J., Hayashi, T., Asakawa, K., Uchida, Y, Kasahara, T., Komoda, F., Salma, Z., Inzelt, A., and Edris,S.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 -
3. 書名 Paradigm shift in technologies and innovation systems	

〔産業財産権〕

〔その他〕

静岡県立大学教員データベース
<https://db.u-shizuoka-ken.ac.jp/index.php/prof/faculty/4>
Researcher list of the University of Shizuoka
<https://eng.u-shizuoka-ken.ac.jp/research/researchers/management/>
静岡県立大学教員データベース
<https://db.u-shizuoka-ken.ac.jp/show/prof485.html>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------